

看護学科

2～3年

科目名: 母性看護学実習				担当教員 氏名: 矢野恵子、古里直子、稲垣尚恵		
単位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2～3年次 通年	専門科目	実習	必修		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			臨床経験を活かし、助産師が行う看護の意図や根拠を説明しながら指導します。			
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の対象とその家族過程の特徴を理解し、母子とその家族における看護の展開について学ぶ。さらに、女性の健康づくりと母子保健の現状について体験的に学び、これらの学習を通して自己の生命観、母性・父性観を発達させる。				マタニティサイクル 女性と子ども 家族 成長発達 役割適応 健康診査 保健指導 母子保健 子育て支援 ウエルネス志向 生命観 母性観 父性観 倫理的配慮		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9		
A 知識・理解力		母性看護の基礎的知識の理解を深める。				
B 専門的技術		母性看護の対象に必要な援助技術を理解する。				
D 問題解決力		受持事例の看護過程を展開し、事例の問題解決に必要なケアを考えることができる。				
G 倫理観		母性看護の対象の倫理的問題(自己決定の支援、プライバシーの保護や個人情報保護、対象の権利擁護など)を思考する。				
H コミュニケーション力		看護ケア実践に必要なコミュニケーション技術を用い、受持事例やその家族、実習施設の指導者、学生、教員との円滑な関係性を図ることができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 40 %	発表: 10 %	実技: 40 %	その他: 10 %		
特記事項: 母性看護学実習評価表、レポート課題、実習態度や積極的な取り組みなどを基に評価する。 実習3週目には教員と面談し、受け持ち事例のケアを通しての学びを報告し最終評価とする。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授業計画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		学習に必要な時間(分)
実習期間: 2年後期～3年後期の期間中 3週間の実習				以下の内容について事前学習し実習に臨んでください。 1. 母性看護学概論・援助論、母性小児疾病治療管理論の講義・演習(援助技術)内容の振り返り 2. 妊娠・産褥・新生児期の母親と胎児・新生児の心身の変化の特徴に沿った看護について 3. 実習記録における事前学習課題について学習を進める。		
実習方法: *詳細については実習要項に記載						
対象	実習環境	実習施設				
妊娠期	産科外来	厚生連高岡病院 高岡市民病院 市立砺波総合病院				
分娩期	産科病棟					
産褥期						
新生児期						
地域での母子保健支援	市町村保健センター	射水市 小矢部 高岡市 氷見市				
	助産所	たんぼぼ助産院 ひまわり助産院 さかえ助産院 にじいる助産院				
使用テキスト: 母性看護学概論、母性小児疾病治療管理論、母性看護学援助論、小児看護学援助論等で使用したテキストを活用する				その他参考文献など: 適宜紹介する		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): * 本実習の目的を理解し、目標の達成に必要な行動目標を明確にし、計画性を持って取り組んでください。 * 実習の計画、実施についてはスタッフ及び教員に連絡・報告を密に行いながら実習に臨んでください。 * 母性看護学概論、母性小児疾病治療管理論、母性看護学援助論 で学んだ知識と技術を統合し実践できる機会です。また、日頃接する機会が少ない方を対象に実習を行うので、看護実践の機会を大切に積極的に実習に臨んでほしい。						